

# 第三十回 鞆の浦 新春能楽祭

令和七年一月三日（金）十二時始

沼名前神社能舞台 福山市鞆町

## 奉納番組

素謡

翁

翁 大島衣恵  
千歳 大島文恵

地謡  
女性組

仕舞

高砂

大島輝久

女性組

仕舞

羽衣

大島伊織

男性組

仕舞

八島

大島衣恵

男性組

主催 福山喜多会

お問い合わせ

喜多流大島能楽堂

福山市光南町2-2-2

☎ 084-923-2633

osimano@orange.ocn.ne.jp

### 沼名前神社能舞台

（国の重要文化財）

豊臣秀吉が移動式能舞台として造った能舞台です。

福山城築城時、徳川二代将軍・徳川秀忠より福山初代藩主・水野勝成が伏見櫓等と共に譲り受け、福山城内外にて演能に使用しました。三代目・水野勝貞の時に、沼名前神社に寄進され、固定舞台となり現在に至っています。

喜多流の流祖喜多七太夫は七才で豊臣秀吉の前で能を舞い、七太夫の名を拝領。徳川二代将軍・徳川秀忠により喜多流は一流の樹立を許されました。徳川幕府は能楽を式楽と定め、幕府や全国の各藩内での重要な儀式には能楽を催しました。能楽は武士のみならず、庶民の間にも普及していきました。

明治維新後、福山藩士であった大島七太郎（能大島家初代）は十四世喜多六平太師に師事し、備後一円に能楽を普及させました。

平成七（1995）年、福山喜多会・大島家では大島壽太郎（能大島家二代目）作の新作能「鞆浦」を約八十年ぶりに再演、石碑も再建しました。

その後、毎年一月三日には能舞台での奉納を続け、本年度で三十回目となります。

【式楽Ⅱ儀式用に用いられる芸能】